

れる近代文明に侵されるまを神話的に描き出す。中国のジャ・ジャンクー監督を委員長とする審査員

東京



最優秀作品賞のフランス・セイビヤール・パション監督「クロコダイル」

る時代になったが、人が集まるといふ映画祭の機能は変わらない。人が集まることで、次代の作り手や観客



ながっていたという欲望がある。映画祭に行く人と人とがつかぬがれると実感できる」。30歳。

夕刊文化

歴史学者

山内 昌之

2

こころの玉手箱

「致仕」や「骸骨を乞う」という言葉がある。公職を辞することである。私も東京大学を辞めた後、致仕を許された気分が日がな一日武鑑を眺めて暮らすことを楽しみにしていた。

武鑑とは、江戸時代に出版された大名や幕府役人の紳士録であり、当主の実名と官位・石高・俸禄・紋所・屋敷などを記していた。

私は東大退官の少し前に、思い切って東洋書林の「江戸幕府役職武鑑編年集成」(全6期)と「江戸幕府大名武鑑編年集成」(全3期)を全部購入した。各期には6巻ずつ収録されているから全部で54巻となる

が、さらに各巻には復刻した武鑑が入っているのだ。たとえば、5代将軍綱吉の時期に当たる「役職武鑑編年集成」4巻には武鑑15冊、「大名武鑑編年集成」3巻には9冊分が復刻収録されている。一部の武鑑を省略している巻もある。

注文した時に、東洋書林の人が「まるでコンクリート・ブロックのようですよ」と表現したのは正しかった。6巻入った玉手箱ならぬ大箱をつつかり足元に落さずものなら、骨折しかねないほど重いのはすでに経験済である。

役職の武鑑は幕府の人事録であり、各種の権限をも



オフィスの書棚には集めた武鑑がぎっしり

江戸時代の紳士録「武鑑」

侍の暮らし知る道しるべ

つ役人や御用達商人の人名や屋敷地が書かれている。

一部の江戸人は、武鑑と切絵図を参考に、進物や賄路を届けたと容易に想像もできる。また大名の武鑑は、紋所や槍印を知ること、

参勤交代や登城行列を眺める物見高い江戸詰侍や町人の好奇心を満足させたに違いない。幕末に大老井伊直弼を暗殺した水戸浪士も武鑑を手に江戸不案内の侍の見物装ったらしい。

私が武鑑に興味をもったのは、もちろん賄路を贈る気分になりたかったからではない。切絵図と武鑑をセットに江戸市中の旧跡を訪ねて歩き回ったかったからだ。先日、東大総合図書館で森嶋外の武鑑コレクションの一部を展示していたが、現物は懐中に入るほど小さく、むしろ復刻本で読む方が至便かもしれない。

ところで、武鑑への関心は専門のイスラーム史や中東政治とも関連しているのだが、野暮な話はまたの機会にしよう。

クラシック

■ マリス・ヤンソンス指揮 バイエルン放送交響楽団



2003年から首席指揮者をつとめるヤンソンスー写真 堀田 力丸

絹のような美音 極上の快感

オーケストラ・サウンドの醍醐味を存分に味わわせてくれる指揮者といえば、誰よりもこの人だろう。今回は、2003年から首席指揮者をつとめるバイエルン放送交響楽団との来日公演である。

前半はブラームスのピアノ協奏曲第1番。「鳴り」がじつにいい。力まかせではなく、自然に余裕をもってたっぷり、そしてみずみずしい響きが出てくる。

一般に、放送局のオーケストラはその性格上、強い個性をもちにくいといわれる。バイエルン放送もたしかに、ウーレン・フィルの艶麗な音色やベルリン・フィルの圧倒的

な機動力にくられば、味は淡泊かもしれない。しかし、それが薄さや弱さといった短所になることなく、澄んで明るく、絹のような美音となる点に、この楽団が名実ともにドイツ語圏のトップ・クラスであることの証明がある。

俊英コンサートマスターのアントン・バラホフスキー率いる弦楽器群も、軽やかに歌う木管も、強さと輝きをもちつつ出過ぎない金管も、高い透明度のなかで、すべてが明瞭に、美しく重なりあう。

この、大気のごとく透明な一体感に、クリスチャン・ツィメルマンの濁りなく力強いピアノも見事に合い、作品の交響曲的な性格をよく示すことになった。

後半は、150年前にミュンヘンに生まれたリヒャルト・シュトラウスの作品から、交響詩「ドン・ファン」と歌劇「ばらの騎士」組曲。

どちらもたつぷりと明るく鳴らす演奏だけに、鋭い陰影には不足する。しかし、豊潤で豪奢な響きに包まれる快感は極上のものだった。25日、サントリーホール。(音楽評論家 山崎 浩太郎)